

令和4年度 ともそだち



令和5年2月8日 NO.19

大崎上島町立大崎上島幼稚園

2月7日（火）に、民話語り講師による「大崎上島学」民話語り聞かせを行いました。今回のお話は、大崎上島町神峰山に伝わる「鬼が嶽の鬼」のお話でした。語り聞かせに、聞き入った子供たち！自分たちの住むふるさと大崎上島の民話にふれ、町に鬼が住んでいたことに驚いたり、お話の内容にたくさんの疑問を感じたりしたようでした。



【鬼が嶽の鬼】

大崎上島町 ふるさとの伝承より

昔、おかし、巖島明神（イチキシマヒメ）様が神峰山にご鎮座されとった頃の話じゃ。神峰山の隣り峰にゃあ恐ろしい鬼が住んどったげな。夜な夜な里に降りてきて人をさらとったんじゃと。山の麓の山尻と本郷の別れ道、不動根の岩場で今晚はどっちにしようかのおーと思案しとったちゅうの、なんせおおけな鬼じゃけん、たっとった岩がひっこんでしもうたちゅうの、里の人達は「鬼の足跡」じゃ言うて、いびしがとった。（別の話では鬼が座とった岩が凹んだとも言う）

里人たちは恐れおののき思案に余って神峰山の巖島明神様に鬼を島から追い出してつかあさいとお願いしたんじゃといの。明神様は里人の願いを聞き届け下さっての、鬼に向かって「お前の所業は目に余る。見すごすこたあでせん。早々に島から立ち去れ。」と厳しく命じられたんじゃと。そしたら鬼は「わしゃあ、この島を出されたら行き先がなあけん、どうか置いてつかあさい。」と明神様に懇願したんじゃそうな。明神様もかわいそうになり「それじゃあ一つ条件がある。明朝一番鶏が鳴くまでに峰に登る道を一晚で造りあげたら、お前の好きなようにしたらよい。」と言われたんじゃそうな。

その晩、鬼は麓から道を造り始めた。岩を動かし山を削って、上へ上へと道を造っていった。あと一息で峰までとどくちゅうところで、一番鶏が鳴いた。鬼はびっくりして「こりゃあ・・・しもうた。ありゃあ、福島金の鶏が鳴いたんじゃ。明神様との約束は一番鶏が鳴くまでじゃった。島を出ていかにゃならんが行くあてもなあ・・・」と思案にあまってとうとう山の岩になってしもうたんよの。

その後、島は人さらいの鬼がいなくなって平穏な日々が訪れたんじゃ。いつの頃か島の人たちは、鬼が住み、岩になった峰を「鬼が嶽」と呼ぶようになったんじゃといの。

～ お話を聞く様子 ～



講師の方のお話に聞き入る子供たち！鬼が岩になってしまったことがかわいそうと感じた子供が多かったです。

～お話の振り返り1～

「僕たちがやった、のおくり兵衛の劇と似ていました。」
年長組

「ちょっと鬼がかわいそうでした。」
年長組

「鳥が鳴いた時、鬼がかわいそうだと思いました。」
年中組

「私は、鬼が嶽に行ってみたいです。」
年長組

「Bちゃんと一緒にです。(鬼が嶽に行きたいです。)」
年少組

「僕も、Aちゃんと一緒に鬼が神様に怒られたところがかわいそうでした。」
年中組

「私は、鬼の石が見てみたいです。」
年中組

「神様に怒られたところがかわいそうでした。」
年少組

「僕は、ちょっと鬼の岩が見てみたいです。」
年少組

「鬼は、泣いていたと思います。」
年少組



子供たちの振り返りから、安藤先生のお話をよく聞いていたことはもちろんのこと、友達の話に共感し、自分の気付きや考えを发表していることがよくわかります。お話をよく聞く力が育っていて嬉しいです。

鬼のお話が怖いと思っていた年少組さんも、「鬼が嶽を見てみたい。」と発表する年中・年長組さんに勇気をもらい「自分も見てみたい。」と前向きな気持ちをもつことができました。この様子から、19名の園児の信頼関係の強さが垣間見れます。そして、「ちょっと」という言葉に良く気持ちが現れていて精一杯勇気を出したことが伝わってきますね。



～振り返りで出た疑問について考えよう！～

年長組さんから「僕は、どうやって鬼が岩になったのかなと思いました。」と意見が出ました。すると、それを聞いていた子供たちからいろいろな意見が出てきました。



年長児：「僕は、どうやって鬼が岩になったのかなと思いました。」

年長児：「自分にねずみ色の絵の具を塗ったと思います。」

年長児：「自分に石をどンドン置いていったと思います。」

年中児：「鬼は、アルミホイルを何周も巻いて石になったと思います。」

「鬼が岩になる？」不思議ですね。年長らしい疑問です。1番嬉しかったのは、友達の間を聞いて自分なりに一生懸命考えて、伝えたことです。それぞれに、今まで経験したことを取り入れています。子供たちの伝え合う姿から、これからもいろいろな体験をさせてあげたいと思いました。

「天狗の足跡」へ行きます。

年長組さんが年少組の時、当時の年長・年中組が天狗の足跡を探しに行きました。山の中は危ないということもあり、年少さんはお留守番をしました。年中組になった時は、蜂がいたため現地まで行くことができず、道路から見ました。そのことをしっかり覚えていたようで、「天狗の足跡を見に行く。」が卒園までにやりたいことの中に入っていました3月に年長さんで行く予定です。3年間大崎上島の民話にふれてきたほし組さん。天狗の足跡を見つけてきてくださいね。